

次号予告

特集／評価

リハビリテーション医療における評価

(その意義と現状ならびに今後の課題)… 高知医療学院 嶋田 智明

正常値とは何か…………… 東大・工学部 飯塚 悦功

関節可動域と測定誤差…………… 東京病院付属リハ学院 宮前 珠子

筋力テストと測定誤差…………… 九州リハ大学校 中山 彰一

ADL 評価表と使用結果の検討…………… 横浜市立大 生田 宗博・他

とびら 批判的吸収…………… 犀潟療養所付属リハ学院 金子 翼

講座 住まいと身体障害

2. 身障公営住宅・住環境…………… 日本大学・工学部 野村 敏・他

” 失行・失認 (1)総論と運動失行…………… 東大・リハ部 上田 敏

ミニ対談 「最終目標は社会復帰」…… (神奈川県立こども医療センター) 前田 信子
(都養育院) 近藤 光子

プロGRESS リウマチ (2)…………… 神奈川県リハセンター七沢病院 岡崎 健

” 児童精神医学における最近の諸問題

(未熟児の母親の心理)…………… 国立精神衛生研究所 池田 由子

文献抄録

編集後記

明けましておめでとうございます。昨年中何か良いことがありましたか。めまぐるしく変化する不確実時代にあって、心の平安を保ち、着実に発展し続けることは並大抵のことではないとおもいます。たとえ、苦い出来事があっても、そこから何かを学び、それを土台にして大きな人間に成長して行きたいものです。

今回は「PT・OT の学問的体系を考える」という特集を企画しました。かねてより、PT・OT の学問的水準が問題にされてきたわけですが、今後一層の展開を期すためにも、お屠蘇でも飲みながらこのテーマについてじっくり思索していただけたらとおもいます。

長老格の砂原氏に今だ衰えぬ思考力を発揮していただき、種々の示唆をいただきました。若さとは思考するということか。寺山氏は作業療法全般について述べていただきました。Activity が人間に及ぼす影

響を多方面から把握すること、そして Activity の治療の要素の分析の重要性を強調されています。富岡氏は精神科の作業療法について分化と統合の観点から、障害学、援助学、適応学の普遍化を提案されていますが、具体的方法論についてはこれからです。

中川氏は、形式やみせかけだけでなく実践や現実の中から法則性を見い出して行くことが真の学問であるといわれています。

学会発表数が増えている割に論文として仕上るところまで至らないようですが、あと一步の押しが欲しいところ。今回は長田氏他、平尾氏の研究報告がありました。

一年間続いた教育学シリーズは先月で終わりました。執筆者諸氏に深謝申し上げます。今月から5回シリーズで「住まいと身体障害」を取り上げました。また、新しい企画として6回にわたり PT・OT に対する意見を伺う『ミニ対談』をお楽しみに。

今年も良い年でありますように！

(奈良 勲)

<編集顧問>

天児民和
九州労災病院長

五味重春
筑波大学心身障害学系教授

砂原茂一
国立療養所東京病名誉院長

津山直一
東京大学教授・整形外科

水野祥太郎
川崎医科大学学長
(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上田敏
東大リハビリ部

荻島秀男
わらび診療所

大喜多潤
兵庫県リハビリセンター

鈴木明子
府中リハビリ専門学校

寺山久美子
都心障センター

奈良勲
有馬温泉病院

福屋靖子

松村秩
都養育院リハビリ部

<編集同人>

大橋博

大丸幸

金子翼

鎌倉矩子

紀伊克昌

駒沢治夫

佐藤章

佐藤馨

嶋田智明

高橋正明

武富由雄

谷岡淳

富岡詔子

中屋久長

藤沢しげ子

松本妙子

丸谷隆明

矢谷令子

山下隆昭

和才嘉昭
(担当 細田・西塚)